

すばらしきみえ。

FOR NICE COMMUNICATION

2024.10
242号

■特集／三重で芸術の秋巡り

●いま、グループネット／あおぞらひとつなぎプロジェクト ●みえを歩こう／鈴鹿市 白子地区



二重で芸術の秋巡り



荷葉(かよう)硯 明※

喬松平遠図
(きょうしょうへいえんず)
李成(りせい) 北宋※飲食菊詩
(れいしょじきくし)
金農(きんのう) 清※

澄懷堂美術館

先人たちが守り受け継いだ、中国書画の世界観に浸る

澄懷堂美術館



「澄懷堂美術館」入口※

「硯と俑の部屋」展示風景
中央には三彩の魁(き・伝説上の生き物)が展示されている。

展示室では巨幅を見下ろすことも可能



新展示棟の展示風景

四日市市水沢町



とは、死者とともに埋葬された人形のことを「俑」と教わりながら次の展示室へ。

平成29(2017)年に四日市市鵜の森から水沢町内に移転した「澄懷堂美術館」を訪ねると、風情ある庭や白壁の蔵などがあり、和風旅館のような趣です。「ここは、猪熊信行(1906~1991)氏の邸宅でした」と教えてくれるのは、学芸課主任の井後尚久さん。お話を猪熊氏とは、同館を運営する「一般財団法人 澄懷堂」(里中俊雄理事長)の創立者。政財界で活躍した猪熊氏は、実業家・政治家として知られる山本悌一郎(1870~1937)が蒐集した、宋・元・明・清朝の中国書画の中から数百点を託されましたが、第

二次世界大戦の戦火から守るために、故郷の水沢町に移して大切に管理・保管。同館は、これらを後世に伝承し、文化振興に寄与したいとの猪熊氏の想いを受けて開館しました。なお「澄懷」とは、六朝山水画の始祖とされる宗炳(375~443)の言葉で、「心を静かに澄ませて胸中の山水を楽しむ」という意味です。山本翁は書斎を「澄懷堂」と名付けていたといいます。

井後さんの案内で館内を見学すると、最初の展示室には、坂東貫山(1887~1966)が蒐集した古硯や猪熊氏収蔵の俑などが展示されていました。「俑

とは、死者とともに埋葬された人形のことです」と教わりながら次の展示室へ。すると、長さ350センチメートルほどの巨幅(大型の掛け軸)などが並び、圧倒されました。同室の一部は2層になつていて、上から見下ろすことも可能。異なる視点から鑑賞できるのも同館の魅力といえるでしょう。また、井後さんの的確で軽妙な解説のおかげで、中国書画が少し身近に感じられました。

本年4月には、新展示棟が開館し、さらに多くの作品を間近に見られるようになりました。10月1日(火)から11月10日(日)までは秋の展覧会も開催中です。この機会に、中国書画の世界観に浸つてみてはいかがでしょう。

天高く、馬肥ゆる秋。慌ただしく移り行く日々の暮らしの中で、秋は、ほつと息づける季節といえます。スポーツや読書に加え、芸術鑑賞にも適しているといえるでしょう。今回は、県内で、さまざまなお芸術作品を堪能できます。この秋、じっくりと芸術作品と向き合ってみてはいかがでしょうか。

*各施設の開館および見学日時・料金・予約方法や受け入れ人数などには違いがあります。状況に応じて延期や休館する場合があります。事前に必ずご確認ください。

取材・文

中村 真由美・中村 元美

撮影……梅川 紀彦・尾之内 孝昭

ただし※印の写真は取材先から提供していただきました

※印の写真は取材先から提供していただきました

●お問い合わせ

「澄懷堂美術館」
(展覧会開催期間は月・火・祝日定休)
TEL 059-329-3335
大人800円 高校・大学生500円
小・中学生300円(团体割引あり)

半泥子の精神が宿る、野外美術館のような窯場

仙鶴窯（旧廣永窯）

[津市分部]



ダイナミックな造形に目を奪われる、土平氏作の灯籠

伊勢自動車を津ICで降り、西へ向けて車を走らせること約10分のどかな里山を抜けたあたりに小高い山が姿を現します。地域の人々にハイキングコースとして親しまれている長谷山です。この山の麓に広がる「仙鶴窯」は、川喜田半泥子（1878～1963）が作陶に没頭しながら若手を養成するために開窯した「廣永窯」をもとに整備されまし

芸に関しては趣味の域を超えて、今なお多くの人々を惹きつけています。約2万坪の広大な敷地内では、登り窯に加えて、半泥子の愛弟子で独自の作風を確立した坪島土平（1929～2013）氏の作品も見られます。豊かな緑の中には土平氏が制作した灯籠も点在し、まるで野外美術館のようです。

「仙鶴窯」は、「ギャラリー仙鶴」に予約



「ギャラリー仙鶴」



登り窯の火入れ風景*



「泥仏堂」*



茶席「山里」*



「坪島土平記念館」外観



「金霧象嵌禽獸文
(きんむきぞうがん きんじゅうもん)
三角捻り花器」

ずクスッと笑ってしまうことでしょう。高橋さんは、半泥子自らが設計してノコギリやノミをふるったという茶席「山里」や、半泥子没後にゆかりの建物を移築した「山の館」、「坪島土平記念館」（幽照館）なども案内してもらいました。その中で「坪島土平記念館」内には、陶器を創作する書斎という意味を込めて「陶斎」

と名付けた部屋があり、今にも本人が現れて、穏やかな笑顔で語りかけてくれそうでした。また、鮮やかな色彩の絵柄が目を引く大皿や、象嵌が施された複雑な形の大壺などが展示され、いずれの作品からも迫つてくるを感じました。「バリタリティがあって、何ごとも意欲的な人でした」と在りし日の土平氏について教えてくれるのは、陶芸家の藤村州二さんです。土平氏の直弟子として修業を積み、今も半泥子の精神を受け継ぎ



「陶斎」



陶芸家の
藤村州二さん

ながら、同窯場で作陶に励む日々を過ぐす藤村さん。東京や大阪の百貨店などで定期的に個展を開催するなど、高い評価を得ています。

なお「仙鶴」とは、半泥子が愛した言葉で、江戸時代の茶人で俳人でもあった堀内仙鶴にちなんでいますが、「千客万来」の意味も込められています。家族や友人たちと訪ねれば、半泥子もきっと喜ぶことでしょう。

お問い合わせ

● 「ギャラリー仙鶴」（土・日・祝日定休）
TEL 059-2221-7120

● 窯場見学は事前予約が必要です。

石水博物館

[津市垂水]



第2展示室では「所蔵品展 川喜田半泥子の作品と季節の館蔵品」を開催

「江戸時代には豪商と呼ばれるような商家同士が縁戚関係を結ぶことが多く、京の柏原家と津の川喜田家も縁戚です。元治元（1864）年、半泥子の祖父で石水博物館の名称の由来ともなった14代久太夫（政明、号・石水 1822～79）の末弟、久四郎（1840～1916）が柏原家に養子に入り、9代柏原孫左衛門を襲名しています。その後も両家は親しく交流し、その孫である10代孫左衛門（弥一郎 1897～1984）と半泥子は京の雅と商人の文化を感じていただけると思います」とのこと。三重県初出展が初めて京都を出た収蔵品ばかりです。

仲が良く、仕事上の付き合いだけではなく、趣味の情報などもやり取りしていました。両家が長い年月をかけて築いた信頼関係によって、今回の展覧会が実現したのです。

展示室でひときわ華やかに目を惹くのは、四ツ目菱の家紋が蒔絵された「貝桶」とそれに入れた「合わせ貝」。京を代表する豪商であつた那波家から柏原家に嫁いできた夫人の嫁入り道具の中の一品です。18世紀に

川喜田半泥子の作品で知られる「石水博物館」。この秋は、京都市東山区にある「洛東遺芳館」所蔵の名品展「京商人の

作られたこの道具類は、大名道具に匹敵する豪華さで、棚や化粧道具などがすべて揃っているとのこと。「貝桶」は、京商人ならではの好みを示す優美な品といえます。伊勢国を代表する豪商の一つであった射和の竹川家から嫁いできた石水の妻・政など、現存する川喜田家の夫人たちの嫁入り道具の目録に「貝桶」などは見当たりません。雅な都の文化を背景に持つ京商人と、質実を旨とした伊勢商



「郭子儀図(かくしきず) (部分)
岸駒(がんく)」*



「虎図(とらづ) (部分)
円山応挙(まるやまおうきよ)」*



「猛虎図(もうこづ) (左隻)」宋紫石(そうしせき)】*



「孔雀図(くじやくづ) (部分)
吳春(ごしゅん)」*

から京に拠点を移した三井家は円山派のパトロンでしたし、松坂の小津家にも多くの丸山派の絵画があつたといわれています。写実的な画風が商人の現実的な気質と合つていたのでしょうか。江戸でも上方でも活躍し、時代を牽引した商人たちの哲学と美意識が結晶したかのような美術品の数々。京商人と伊勢商人の文化の共通点も相違点も感じられる展覧会です。

お問い合わせ

【石水博物館】（月曜休館）

TEL 059-227-5677

●入館料

一般500円 学生（高校生以上）300円

中学生以下無料



「貝桶」と「合わせ貝」*



那波家からの嫁入り道具の
一つ「お歯黒道具」*



学芸員の桐田 貴史さん

サイトウ・ユージアム

コレクターと学藝員が開いた
「心に効く」美術館

【松阪市魚町】



「サイトウミュージアム」外観
松阪駅から徒歩8分の距離
に学芸員として勤務していた田中さんが、展覧会に出す作品を借りるため齋藤さんを訪ねたことに始まります。齋藤さんは、知名度よりも自身の感動や作家のひたむきな情熱などを重要視して作品を集め一方、美術の力で医

落ち着いた展示室。左回りに観覧する

松阪市の中央、魚町にある白い瀟洒な建物が「サイコ医である齋藤洋一さんの収集した作品を展示する私設の美術館です。」約3000点に上る収集品の中から、展覧会ごとにテーマに合うものを選んでいます」と教えてくれたのは、学芸員の田中善明さん。館の開設準備以来、オーナーの齋藤さんと二人三脚で現在に至ります。

を始めました。
開館は令和
4年。以後、
「旅する絵画」
「再発見！美



学藝員の田中 善明さん

しすぎる日本近代の絵画」「味わう静物画」「嵐山、そして水のある風景」など、興味深い企画展が続けられています。館内に入ると、展示室は淡いグレーと白で統一された落ち着いた空間。「絵に

集中してもらえるよう、天井の高さや照明などにこだわりました。また、先入観なく作品に接してもらえるよう、作者名や解説が作品の後になるように展示してみました。『グラス』は、この夏、東京、近畿、北陸、関西、東北、沖縄と全国を巡回する予定です。

A painting of a woman with dark hair styled in a bun, adorned with a small orange flower. She has a gentle expression, with her hand resting near her chin. The background is a soft, neutral tone.

A painting of a sunset over the ocean. The sun is low on the horizon, casting a warm glow over the water. Several sailboats with large, dark sails are scattered across the water, their reflections visible on the surface. The sky is filled with soft, pastel-colored clouds.

「The Signified or If IV 意味されるもの あるいはもしも No.4」荒川 修作*

〔DENT PROMPTE〕 マックス・エルンスト ※
の中に誘われ
ていくような
感覚になり、
さわやかで好
きだと感じ
る一枚の前で
は気分も爽
快になります。
た。 音楽が

お問い合わせ
「サイトウミュージアム」(月・火・水・木曜休館)
TEL 0598-21-1111
●入館料
一般500円 大学・高校生300円
中学生100円 小学生以下無料

興味深いラインナップです。「今回の展示には作品解説を付けず、見る人それぞれの目と心で感じてもらおうと考えています」と田中さん。

訪れればきっと、「好きだなあ」と感じられる作品と出合うことができるでしょう。あなたの『心に効く』一枚に出合いに行きましょう。

聴く人の気持ちを変えるように、絵画も見る人の精神に作用し、心を静めたり、元気を与えてたりするのでしよう。

この秋の企画展は、「題名の無い絵画展2024」(10月27日(日)まで)。今までの展示会とは趣向を変えて、1階の展示室には田中さんが、2階には齊藤さんが選んだ作品が並んでいます。お二人の個性や志向の違いなどが感じられる興味深いラインナップです。「今回の展示には作品解説を付けず、見る人それぞれの目と心で感じてもらおうと考えています」と田中さん。

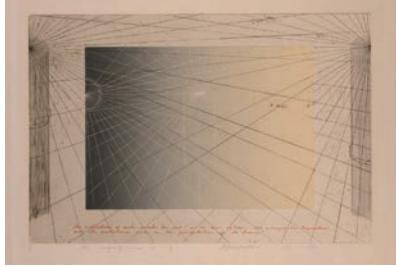
聴く人の気持ちを変えるように、絵画も見る人の精神に作用し、心を静めたり、元気を与えてたりするのでしよう。

この秋の企画展は、「題名の無い絵画展2024」(10月27日(日)まで)。今までの展示会とは趣向を変えて、1階の展示室では日本画、2階では洋画を主とし、廊下では新規制作のアーティストによるパフォーマンスが行われるなど、これまで以上に多様な体験ができる展示会となる予定だ。

絵を見る」と
ができるのも
魅力の一つ。
静かな展示
室で一枚一
枚の作品を
ゆったり見
ていると、絵
の中に誘われ
ていくような
感覚になり、

示室には田中さんが2階には齋藤さん
が選んだ作品が並んでいます。お二人
の個性や志向の違いなどが感じられる
興味深いラインナップです。「今回の展
示には作品解説を付けず、見る人それぞ
れの目と心で感じてもらおうと考えて
います」と田中さん。

訪れればきっと「好きだなあ」と感じ
られる作品と出合うことができるで
しょう。あなたの『心に効く』一枚に、出
合いに行きましょう。



伊賀市 ミュージアム
青山讚頌舎 うたのいえ

青山の風景をこよなく愛した水墨画家により建設

〔伊賀市別府〕

青山讚頌舍

A vertical framed painting depicting a traditional Chinese pavilion with a dark tiled roof and intricate carvings, situated in a garden with large pine trees. The scene is set against a light blue background with a full moon visible in the upper left corner. The painting is mounted on a dark wall.

その麓は自然豊かなエリヤで、木津川に並行して初瀬街道があり、見どころも多いまちです。地震除けの守り神「要石」で知られる大村神社のそばに、純日本建築の「伊賀市ミュージアム青

「青山町」は、かつて三重県名賀郡に存在した町名。平成16(2004)年の合併後、伊賀市となりましたが、青山高原と



絵葉書 「若宮八幡神像」
伊賀市指定文化財



宝厳寺の大般若経と 「大般若経守護十六善神」穂月 明



「鍾馗(しょうき)図」穂月 明

未指定でも
宝厳寺所有の大般若經六百卷など、貴重な文化財に詳しい解説を添え、地元に残る神仏の世界の一端を紹介しました。

宝厳寺所有の大般若經六百卷など、貴重な文化財に詳しい解説を添え、地元に残る神仏の世界の一端を紹介しました。

本画と洋画の基礎を学ぶも、卒業間近に見た中国清朝の文人画家「金冬心」に深い感銘を受け、独学で水墨画に転向します。師に付かず、派閥に属さず、賞も断つて画業に専念し、独自の絵画世界を築きました。青山の風景をこよなく愛し、52歳で伊賀に移住。「作品を描くために静

多くの字型に設
計された館内は
奥行きのある展
示に活かされ、
また離れの茶室
は、穂月さんが

多くのいます。
コの字型に設
計された館内は
奥行きのある展
示に活かされ、
また離れの茶室
は、穂月さんが
柱の木や天井
材、壁土などを
何年もかけて集
めて完成させま
した。庭園には
石像があちこち
に展示され、自
然を大切にした
美意識の詰まつ
た空間が広がつ
ています。



茶室の壁には
伊勢暦(いせごよみ)を



石像が展示された庭園

術専門学校（現・京都市立芸術大学）で日

より建設

賀市別府

穂月 明さんの作品と古美術品、パネルを合わせて72点を展示

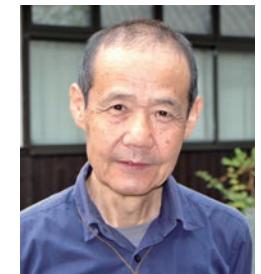
その麓は自然豊かなエリアで、木津川に並行して初瀬街道が通り、見どころも多いまちです。地震除けの守り神「要石」で知られる大村神社のそばに、純日本建築の「伊賀市 ミュージアム青山讚頌舎」があります。

元々は水墨画家の穂月 明さんが建てた美術館（「青山讚頌舎 美術館 日月舎」）で、自身の作品や収集した古美術を公開していました。名称は穂月さんが青山の豊かな山河を称えて、命名しました。

穂月さんが亡くなられた後は、遺族が伊賀市に寄贈。市で初めてとなる美術品の展示施設として開館しました。

「穂月の作品をみてもらう通常展と、ほかの作家さんの特別展で、年に6回ほど企画展を行っています。展示ごとにすべての作品が入れ替わります」と、穂月さんの長男で同ミュージアムの学芸員・穂月 大介さん。取材で訪れた際の企画展「神が息づき仏が導く・穂月明と仏教美術の世界（伊賀市文化都市協会主催）」を案内していただきました。

このときに初公開となつた「若宮八幡神像」は、穂月さんの収集品の一つで、鎌倉時代末期から南北朝時代の作品とみられ、昨年3月に市の文化財指定を受けました。「描かれている貴公子は八幡神（応神天皇）の若宮であることから、仁徳天皇とされ、天皇のみ許された装束を着ています」。同絵画を始め、穂月さんが神仏をテーマに描いた作品、神仏習合の時代の仏教美術や民間信仰についての



学芸員の穂月 大介さん

お問い合わせ

〔伊賀市ミュージアム〕
TEL 052-300-0031
入館料

「アム青山讀頌舍」(火曜休館)
95-52-2100

式年遷宮記念 神宮美術館

【伊勢市神田久志本町】



展示室2は書院造の様式で和の空間

無形文化財保持者(人間国宝)といつた、名だたる作家の作品を収藏・展示しています。コレクションの特徴は、全てが神宮に奉納された作品であるということ。

帳には、献納式に来館した作家の、直筆署名を見ることができます。

「式年遷宮を奉賛し、当代を代表する作家の方々から真心のこもった作品が寄せられ、現在約500点を収藏しています」と神宮司庁文化部・学芸員の中村潔さん。日本の美術工芸作品の歩みを展望する美の殿堂をめざし、当代美術の粋を一堂のもとに鑑賞できる展示内容です。

伊勢神宮の内宮と外宮のほぼ中間地点にある倉田山は、別宮の倭姫宮が鎮まり、緑あふれる憩いのゾーン。一帯は「倭姫文化の森」として遊歩道も整備されています。

ここに平成5(1993)年、第61回神宮式年遷宮を記念して創設されたのが「神宮美術館」です。文化勲章受章者・文化功労者・日本藝術院会員・重要

「式年遷宮を奉賛し、当代を代表する作家の方々から真心のこもった作品が寄せられ、現在約500点を収藏しています」と神宮司庁文化部・学芸員の中村潔さん。日本の美術工芸作品の歩みを展望する美の殿堂をめざし、当代美術の

となっていますが、そもそも美術作品が奉納されたのは、昭和28(1953)年の第59回式年遷宮がきっかけだったようです。「戦後の遷宮は国家の手を離れ、主軸は国民の奉賛に移行して行われるようになりました。そんなとき芸術家の方々から作品を売って遷宮費用にどうありがとうございました。そこで、芸術家たちが神宮に奉納された作品であります。

そのジャンルは日本画、洋画、彫塑をはじめ、版画、書、また陶芸、染織、漆芸、金工などの工芸と、多岐にわたります。これほど異なる分野の一級品が集まり一度に鑑賞できるのは、貴重な機会といえるでしょう。

建物は日本藝術院会員の大江宏(1913~1989)による設計で、枯山水庭園にせり出した、勾配屋根を持つ和風の現代建築。丸みを帯びた唐破風屋根の入り口から足を踏み入れると、エン

トランスはカーブを描いた天井で、ゆっ

たりとした贅沢な空間です。また木をふんだんに使い、木目を活かした内部のデザインが和やかな雰囲気を醸し出し、休憩



日本庭園とマッチする和風建築

展示スペースは2つ。大きな作品が見応えのある展示室1と書院造を思わせる和を活かした展示室2があり、どちらも作品とじっくり真剣に向き合えるよう工夫されています。

毎年、奉納された作品を紹介する収蔵

展と宮中で開かれる歌会始をテーマにした企画展が開催されています。「歌会始の御題に合わせた特別展を平成8(1996)年から行い、毎年の嘉例としています。今年の御題の「和」にちなみ、この夏にアプローチを二つに分けて作品を展示しました。また令和5年度に奉納のあつた8名の作家による14点を、特

集展示(12月24日(火)まで)しています」と中村さん。

鑑賞後には「美術館四季のこみち」を散策し、また敷地内の「神宮徵古館」と「神宮農業館」にも立ち寄ってみてはいかがでしょうか。紅葉や桜と季節の変化を楽しめる森の中、芸術に触れ神宮への見識も深まるスポットです。

お問い合わせ

「式年遷宮記念 神宮美術館」(木曜休館)
TEL 0596-22-5533

● 入館料
大人500円 小・中学生100円
(3館共通券700円)



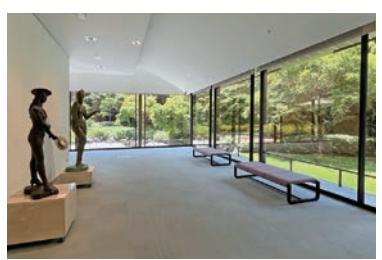
神宮美術館を訪れた作家の芳名帳



絵葉書や図録を販売するエントランス



広々とした空間の展示室1



中庭を望む展示廊に2つの彫塑作品



季節を愛する「美術館四季のこみち」

NPO法人 あおぞらひとつなぎプロジェクト

熊野を拠点に活動する「NPO法人 あおぞらひとつなぎプロジェクト」は、音楽イベントを中心に、映画上映会や勉強会を開いています。地域社会を核にした新しい活性化モデル、子育てモデル、働き方モデルに関する事業を行い、地域の魅力向上、労働環境や子育て環境、学習環境の向上、次世代の子育て生活についての啓発へとつなげています。

地域に暮らす子どもたちの未来が、豊かな自然に恵まれた地球であることを願い、小さな一步を増やしていこうと活動する「NPO法人 あおぞらひとつなぎプロジェクト」。「Iru-cafe」のオーナーであり、「アトリエジーダ」主宰のステンドグラス作家でもある代表の東由紀子さんにお話を伺いました。

— NPO設立の経緯をお聞かせください。

東：令和2年に結成しましたが、きっかけは空き家対策でした。カフェのある熊野市紀和町は山間の集落で人口減や高齢化の課題を抱え、住む人たちは減る



代表 東由紀子さん

お問い合わせ

NPO法人
あおぞらひとつなぎプロジェクト
東由紀子さん
熊野市紀和町小栗須29番地5
TEL 080-1763-2718

つけてくれるメンバーです。

—人と地域、人と人をつなぎ、そこから音楽イベント「あおぞらひとつなぎ」がはじまったのですね。

東：カフェのオープン2周年記念に音楽イベントをしました。地域の人たちがつながるための音楽です。アコーディオンが得意な人、キーボードだけある人、そういう人たちが、一曲弾けるわけではなかつたけれど披露する機会があれば、それを仕上げようと練習します。人前に出るというプレッシャーが、がんばろうという気持ちにさせますし、うまくなると心地よいもの。ギター一本持つてきた人が、はじめて会う人とセツショングをすることもありますよ。



[Iru-cafe]の店内

— 東さんの人脈から人と人がつながったのですね。

東：イベントには熊野鬼城太鼓のメンバーもかけてくれて、来場者にも喜んでいただけました。カフェ裏の元自動車整備工場で、熊野の藍染め作家さんや市木木綿を継承する人たちの工芸品も販売したところ、好評で定期的に開催していました。今では出演者も13組前後集まり、フォークあり、ロックあり、なんでも演奏しています。21歳の地元の子が同じ世代がないからと、みんなに呼びかけ、幅広い世代のバンドを結成しました。

今はカフェの前にある入鹿中学校を会場に使わせていただいています。きれ

いな木造校舎で、木を使った本物の空間を見てもらえる機会になっています。

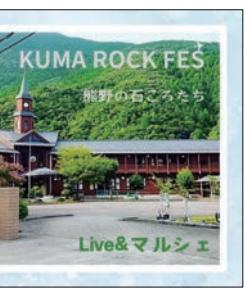
— ほかに映画上映会や竹灯りイベントなどを開催していますね。

東：映画「地球交響曲」は、地球はそれ自体がひとつの生命体であるという理論に基づいて製作されたオムニバスのドキュメンタリーです。故龍村仁監督の妻のゆかりさんや笛奏者の雲龍さんを招いて上映しました。シリーズの「第六番」は音をテーマに、演奏シーンに熊野の風景が登場し、美しい映像と音楽に引き込まれ、熱心に鑑賞してくれました。

新型コロナウイルスの感染拡大により、さまざまな影響が広がっていたころ、こんな時にこそ家族や仲間と落ち着いて過ごす事が大切だと、「全国47都道府県で灯す竹灯り・みんなの想火」で三重の事務局を担当しました。

事前に各地で竹灯りを作るワークショップを行い、糸を深めてもらいました。近くの入鹿八幡宮の大祭の日には、プチマルシェを開催したり、次は10月20日(日)にクマロックフェスを予定しています。

—ご縁をつないで行動に移す東さん。



入鹿中学校を告知ポスターに※



世代を超えて音楽でつながる※



ジャンルさまざまに音楽を楽しむ※



「あおぞらひとつなぎ」に参加のメンバー※

音楽、そして熊野の芸術に触れる機会を作り、地域社会の活性化や住みよいまちづくりに寄与しています。

インタビュー…中村元美



伊勢街道に息づく伝統産業

鈴鹿市 白子地区

江島本町～白子～寺家

四日市市の「日永の追分」で東海道と分かれて南へ向かい、現在の鈴鹿市白子地区（江島・白子・寺家）などを経て伊勢へと至る道筋は、伊勢街道と呼ばれます。「参宮街道」とも称される街道は、江戸時代を通して伊勢参りの人々で賑わい、多くの物資や情報が行き交いました。

今回は、伊勢街道に沿って続く白子地区を中心に歩きます。かつての繁栄の面影を残す神社や、伝統産業発祥にまつわる物語が伝わる名刹に加えて、伝統産業を見学・体験できる施設もあり、充実した時間を過ごせることでしょう。

取材・文：中村 真由美

廻船業で繁栄した白子港

今回の散策は、近鉄「白子」駅東口から始まりますが、その前に立ち寄りたいのが、同駅西口近くの「鈴鹿市観光案内所」です。地図やパンフレットなどが揃つており、必要な情報を得ることができるでしょう。

案内所を後にして、駅の東口から北東へ向けて15分程度歩くと、松林に守られるようにたたずむ神社が姿を現しました。海上安全と安産の神様として信仰を集める、江島若宮八幡神社です。江戸



江島若宮八幡神社



文政3(1820)年に寄進され、かつては灯台の役目も果たしていた常夜燈



伊達家住宅



「伊勢型紙資料館」(TEL059-368-0240)

時代成立の『伊勢参宮名所図会』で「繁昌の湊なり」と紹介されたように、白子港一帯には廻船業者などの問屋が建ち並んでいたといいます。同神社には、こうした業者が奉納した絵馬が多数保存されています。71面が県の有形民俗文化財に指定されています。なお、事前予約で、絵馬の見学が可能です。

江島若宮八幡神社と、近くに建つ大きな常夜燈に別れを告げて、神社の西側を通り、南へと進みます。この道が伊勢街道で、ところどころで連子格子の家を見かけました。その中で存在感を放っていたのが、軒下に「油屋忠兵衛」と掲げられた建物。江戸時代には肥料・油・米などを商う廻船問屋だった伊達家住宅で、主屋は国の登録有形文化財になっています。

「伊勢型紙資料館」

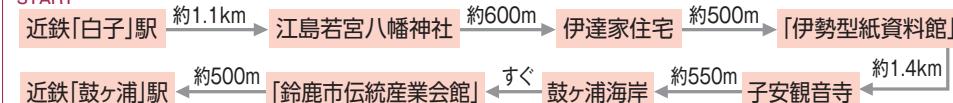
伊勢街道から一時離れて、次に訪ねたのは「伊勢型紙資料館」です。同館は、白子屈指の型紙問屋だった寺尾家の住宅を修復して、平成9(1997)年に開館。関連資料を無料で公開しています。「伊勢型紙」とは、着物などの文様を染める



お話を伺ったのは、子安觀音寺(白子山觀音寺)住職の後藤 泰成(たいせい)さん。伊勢型紙発祥にまつわる物語や、最近復活した「富貴絵(ふきえ)」について詳しく教えていただきました。

行程図 所要時間／約3時間 ※所要時間は、およそその目安です。

START



ために用いられた型紙のこと。和紙を柿渋で加工した型地紙に、彫刻刀で彫られた精緻な文様は人々を魅了し、着物文化の中で大きな役割を果たしました。なお、この文様を彫るには高度に熟練した技術と根気・忍耐力を要します。平成5(1993)年には「伊勢型紙技術保存会」が国の重要無形文化財保持団体に認定され、技の保持・伝承が続けられています。

子安觀音寺と、「復活した富貴絵」

「伊勢型紙資料館」に立ち寄った後は再び伊勢街道に戻り、次は「伊勢型紙」発祥に関わるという子安觀音寺をめざします。



地域住民が何度も建て直し、今では町のシンボルとなっている道標

ます。途中で「さんぐう道」と刻まれた道標に案内されて釜屋川を渡り、西へ方向を変えると、堂々とした赤い門が現れました。元禄16(1703)年に建立された同寺の仁王門で、県の文化財に指定されています。「伊勢型紙」発祥の物語が伝わるのは、境内に枝を広げる「不斷桜」で、中でも有名な話が、久太夫という翁が虫食いの葉の模様に感得したのが始まりというものです。



子安觀音寺の仁王門

で同寺を後にします。仁王門から南へと続く道が、磯山へと向かう伊勢街道ですが、今回は東へ進みます。すると、マツの大木が生い茂る海岸が目の前に現れました。このあたり一帯が鼓ヶ浦海岸で、散策などを楽しむことができます。なお、子安觀音寺の本尊が、この海から鼓に乗って現れたことから、その名が付いたと伝わります。



「鈴鹿市伝統産業会館」(TEL059-386-7511)

したが、参拝記念のお土産として売られていたのが「富貴(久)絵」でした。「一時途絶えていましたが、最近になって「伊勢形紙協同組合」のご協力で復活できました」と住職の後藤泰成さん。住職に見せてもらうと、大きな絵葉書ぐらいのサイズの型紙に、境内の



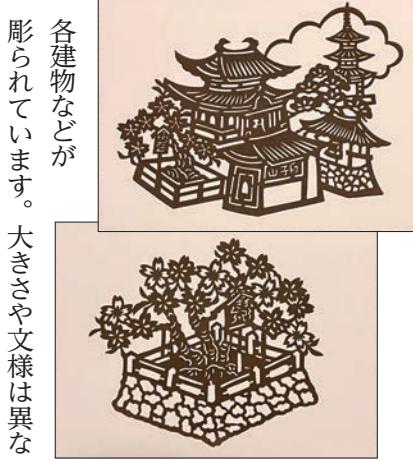
子安觀音寺本堂内部



「不斷桜」(国指定天然記念物)※

各建物などが彫られています。大きさや文様は異なるものの、「伊勢型紙」と似ていることに気付きます。同寺の周囲には、多くの型紙職人が住んでいましたが、かつてはこの職人たちが「富貴絵」も制作して販売していたのだと教わります。両者ともに発祥に関して確実なことは不明ですが、この「富貴絵」が元となつて「伊勢型紙」へと発展したのだと思われます。

白砂青松の海岸眺めた後は、近くの「鈴鹿市伝統産業会館」へ向かいます。同館では、毎週日曜日には「伊勢型紙」、第2・第4日曜日には「鈴鹿墨」の実演を行っていて見学が可能です。「鈴鹿墨」の歴史は古く、8世紀にまで遡ると伝わります。江戸時代になり、上質な墨が必要になったことや、紀州藩の保護もあり、急速に発展を遂げました。現在は、



「富貴絵」

経済産業大臣指定の伝統的工芸品として、その技が受け継がれています。また、同館ではしおり彫刻体験に加えて、はが

鼓ヶ浦海岸から

白子地区と同寺の深い関わりなどを住職に教わった後は、名残惜しい気持ち

きやミニ色紙彫刻体験などもできます。それぞれに予約方法、料金、所要時間が異なるため、都合に合わせて事前に確認するといいでしよう。

「鈴鹿市伝統産業会館」から近鉄「鼓ヶ浦」駅までは徒歩約10分の距離。伊勢街道沿いに息づく歴史や伝統産業を巡る散策はこれで終了です。

一般社団法人 鈴鹿市観光協会

(月曜日定休)

TEL 059-386-05595

子安觀音寺(白子山觀音寺)

守りたい、いのち 三重県指定希少野生動植物種

絶滅のおそれのある動植物種のうち、特に保護する必要がある種で、
三重県指定希少野生動植物種として指定している野生動植物を紹介します。



オニバス

被子植物双子葉類スイレン科

◆ 分布 ◆

北勢、(中勢)、(南勢)

本州(宮城県以南)～九州の低地に分布する一年草。1メートル以上の大きな水上葉をつける。8～10月に紫色の花を咲かせ、浮遊生の種子をつける。池沼や用水路など、どちらかといえば富栄養状態にある環境に生育する。土地造成や水質汚染により減少している。

資料・写真提供：三重県 農林水産部 みどり共生推進課 野生生物班

■ お問い合わせ

三重県 農林水産部 みどり共生推進課 野生生物班

TEL:059-224-2578 メールアドレス:midori@pref.mie.lg.jp

*三重県指定希少野生動植物種を県ホームページに準じて紹介しています。

*県ホームページで他の野生動植物種をご覧になれます。

表紙写真 「仙鶴窯（旧廣永窯）」（津市分部）

百五銀行のホームページで、「すばらしき“みえ”」のバックナンバーをご覧いただけます。

<https://www.hyakugo.co.jp/mie/>